

採 点 講 評

英 語

総 評

高2アドバンスト英語では、リスニング、語句整序、和文英訳、長文読解、自由英作文といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に自由英作文や和文英訳、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

① リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(3) 正答の選択肢c内のdevelopmental problemsがそのままの表現で放送されていたためか、比較的良好にできていた。反対に、正答の選択肢が放送内容を別の表現で言い換えている場合に、正答率が下がる傾向にあるようだ。単語だけで判断せず、内容を理解した上で判断しよう。

問題B

(6) どちらの空所も放送された語で埋めることができるため、空所補充型の要約問題として難易度は高くないのだが、白答が目立った。今回のように、意見交換をする対話文の聞き取りでは、双方で意見が一致しているポイントはどこか、また意見が分かれているポイントはどこか、それぞれ整理しながら聞くようにしよう。また、前後のつながりから見て不適切な品詞を書く誤答も散見された。空所を含む文の構造をきちんと確認し、文法的に適切な品詞で解答することを心がけよう。

② 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で、日本語も与えられていない。与えられた語句から文を作り上げることができるかどうか

かを見た。

(1) suchを見ると反射的にsuch a～の形で考えてしまいがちだが、suchを使う表現はいくつかある。なじみのある表現から発想するのはよいが、すべての選択肢を並べたところで、文法的に成立しているか、また前後とつなげて読んで意味が通じるかをきちんと確認しよう。

(2) 文頭にthe disappointmentを置いた誤答が多く見られた。カッコを含む文の後半で、the world以下が1つの節になっていることに注意しよう。また、カッコ内のpresentの使い方に迷ったような解答も多く見られた。be present at～(～に出席して)という形容詞としての用法は和文英訳や自由英作文でも頻出なのでぜひ覚えておきたい。

(3) 空所末尾のno matter what…(たとえ何を…しようとも)の表現はできているが、冒頭のhow come…(どうして…するのか)ができていないものが多かった。

(4) 空所直前のshould notに続けてshould not have to leftとした誤答が多く見られた。should not have done(…しないほうがよかったのに(実際はした))は仮定法との関連でも問われやすい表現なので、整理しておこう。

(5) it remains to be seenの形が何となくできているのに、カッコのあとと文法的につながらない解答が散見された。

問題B 和文英訳

和文英訳は、訳しやすい日本語に直してから英訳すること、できるだけ基本語を用いて簡潔に表現することを意識して取り組みたい。減点部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

①「言葉」が「『もうバイオリンは弾けないね』という」と「不注意に思える」の2つの要素で説明されているため、文構造に迷った解答が多く見られた。表し方は何通りか考えられるが、模範解答や別解で文構造を確認しておこう。最も気になったのは、「もう」をyetとする誤訳。yetは「(すでに)もう;まだ」の意味なので、文脈に合わない。問題文の「もう」は「もう今後は;もはや」の意味なので、anymoreが適切である。また、「～のやる気に火をつける」は「～に…する意欲を起こさせる」と考えてmotivate～to doやencourage～to doを使うと書きやすい。make～to doは「～に(無理矢理)

…させる」の意味で、今回のように「意欲が起きた」という状況の訳としては不適切である。

⑥「逆境に打ち勝つ」で win を使った解答が多かったが、win は win the game (試合に勝つ) のように、目的語には「試合・競技」または「賞品」をとるため、ここでは不適切。「困難」などを目的語にとる動詞表現としては overcome や get over, fight against などを用いるとよい。

③ 長文読解

砂の需要の急増とそれによる影響について述べた英文。身の周りにも普通に存在する「砂」を資源として意識することは少ないので、意外な内容だと感じた人も多かったのではないだろうか。英文全体として難しい表現は少ないが、下線部で出題されているように意味を取りづらい表現があるので、前後の文脈を考えながら読み進める力が問われた。

(1) run out of ~ (～が不足する) の表現を知らない場合でも、第1段落第1文の「ほとんどどこにでも砂があるように見える」という内容と、下線部を含む文の文頭の But、下線部以降の「砂は最も多く消費される資源である」という内容から、ある程度推測することができるだろう。

(2) d という誤答が多かった。下線部のあとの説明に too smooth and round to be used (使えないほど滑らかで丸い) とあるので、砂漠の砂の問題点は量ではなく質であるという点に注意しよう。

④ 長文読解

第3段落以降のキーワードである、altruism (利他主義) という単語が難しく、読解に困難を覚えた人もいるかもしれない。ダッシュのあとの説明や続く具体例から、これがどのようなものか、なるべく早い段階でイメージできるとよかっただろう。

(1) 短いですが、文法的に重要な要素がたくさん詰まった文。無生物主語の訳し方、wouldn't が仮定法として使われていること、simply が「単に」ではなく、「絶対に…(ない)」という意味であること、などをしっかり復習しておこう。

(2) 英文構造が複雑な文だった。解説を読んで、構造をよく確認しておこう。答案では、when it comes to ~ をうまく訳せていないものが多く見られた。基本的な表現なので、しっかり押さえておくこと。

(4) 下線部の直前の In contrast と下線部の in this way の読み取りがポイント。in contrast (対照的に) という言葉が出てきたら、「何」と「何」が対照的な関係にあるのか、問題になっていないときでも考える習慣をつけたい。

(5) かなりの難問となったようだ。該当箇所が For

example で始まる次の段落であることに気づけた人がそもそも少ない。(4) で取り上げた in contrast もだが、このような論理展開を示す語句に注目して読む訓練を積むこと。該当箇所に含まれる vice versa (逆もまた同じ) は難しい表現だったと思うが、これを機にしっかりと覚えてほしい。

⑤ 自由英作文

文法・語彙と内容・構成の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(35語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……15点

誤りの数に応じて、15点を越えない範囲で減点している。

○内容・構成点 ……15点

内容に応じて、15点(減点なし)、10点(-5点)、5点(-10点)、0点(-15点)のいずれかの点数をつけている。以下のような答案は内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由が説得力に欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの
- ・同じ内容の繰り返しになっているもの

今回のテーマは、すべての高校で英語以外の言語を選択できるようにすべき、という意見に対する賛否を問うものだった。予想に反し、圧倒的に「反対」の答案が多く、「英語がまだ得意でない人が多い」「英語が一番役に立つ」という理由が挙げられていた。「賛成」の答案では「日本に多くの外国人が住むようになっているが英語が話せない人も多い」「海外で仕事をするのに中国語など英語以外の言語も必要」といった理由がよく見られた。また、賛成している答案でも「しかし、英語も大切だから他の授業を減らして2つの言語の授業が必要」という意見もあった。このような答案は70~80語という制限語数を生かし、反対意見も組み込み、うまくまとめていると言える。意見を述べる英作文では、自分とは異なる意見の人に対して説得するという視点を持って取り組みたい。理由を述べる際には、具体例やエピソードを挙げるなどして、読み手が納得できるような根拠を示すように心がけよう。

第2回 高2英語

総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(1) 誤答としてはbとdが多かったが、創立されたのと校舎が建てられた時期がずれていることに注意して聞き取りたい。(4) 誤答ではbが多い。メアリーは a play and a rock band と言っているが、ケンジの最後の発言ではバンドの演奏が先にあることがわかる。複数箇所の情報を組み合わせて判断しよう。

問題B

Part 1 (1)～(3)は比較的よくできている。

(4) 質問文には How did Kenji feel …? とあるが、模範解答のように miss を使って答えられた解答は少数だった。また、when he came back to hot and humid Japan とあるので、読み上げ文でもこの表現が使われた前後に注目したい。読み上げ文の最後に「またカナダに行きたい」とあり、この部分を含めた解答が散見されたが、ここでは質問文をふまえて、気候を中心に答えることに注意しよう。

Part 2 スペルミスの減点は各ー1点であるが、その他の単語の抜けや単語の誤りは配点分の減点とした。(ア)では harder という比較級にできなかった

もの、harder に引かれて from でなく than と書いてしまったものなどが見られた。(イ)では backgrounds を2語に分けてしまったものが意外にも多く見られた。また、前置詞 from は弱く発音されることに注意しよう。苦し紛れに who としている答案もあった。ディクテーションでは一般的に a, of, the のように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、自分の解答が文法や語彙の知識に照らして誤りがないか確認することに注意したい。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) (2) は比較的よくできている。(3) 2つの動詞を逆にしたウ→オ→エ→カ→ア→イだと 'Marmalade' means 'marmelo', which drives from (quince in ~) となるが、これでは『「マーマレード」というジャムそのものが『カリン』という果物を意味する」ということになり、直前の文の「マーマレードはカリンから作られたジャムを意味するものだった」と矛盾してしまう。(4) 冠詞 the が付くのは amateur marmalade makers ではなく、「コンテストの出場者」という意味で限定される competitors の方である。

問題B 和文英訳

「スマートフォンを利用した旅行」というテーマでの出題。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

① 「どんな情報でも与えてくれるスマートフォン」は、解説にあるように、制限用法の関係代名詞で書くと、そうでないスマートフォンもあるような印象を与えるので、コンマを打って非制限用法にすることがポイント。「～にとって代わる」は replace ～ や take the place of ～ を知らないといけない。また take place では「物事が起きる」の意味の、別の熟語になるので区別して覚えよう。「～の代わりに…が情報を与えてくれる」と読み換えてもよい。

② 「できるだけ多くの～」では 'as 形容詞+名詞 as' の語順の間違いが散見された。× visit many popular places as many as possible などとしないよう注意しよう。

③ 「解答」のように you can enjoy ～ の形で表せ

ていた解答も少し見られたが、ほとんどが「旅の醍醐味」を主語にして表していた。「事がうまく運ばない」は「計画したように物事を行えない」のように読み換えたものの、英語として不自然な表現が目立った。日本語の字面にとらわれず、訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。

3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の下限の半分(25語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点、8点、6点、4点、2点、0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答えは内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

賛成意見としては「勉強時間の確保」「休息や自由な時間に充てるべき」、反対意見としては「まとまった練習時間の確保」といったように具体的に根拠を示している答案が多かった。同じ内容を繰り返すだけでは主張の説得力に欠けてしまうため、理由は異なる観点から複数挙げると指定語数を満たすのに書きやすかっただろう。

4 長文読解

ジョン・ロールズというアメリカの哲学者が書いた書籍を中心に、経済学の初歩的な理論について解説した文章。内容的にはやや抽象的な部分もあるが、人間は現在の自分が置かれた状況をもとに物事を考えがちである、というところは具体例を挙げて述べているので、イメージをつかめたのではないかな。

(1) 倒置構文になっているのでそれを生かして「中心にあったのは…だった」のように訳したいが、この倒置は、強調のためとも文のバランスを整えるためのものとも考えられるので、通常の訳順にしたものも許容した。state は前の部分から「状況」ではなく「国家」と訳す。「発言；記述」という訳が見

られたが、この意味を表すのは statement である。

(2) 誤答では d を選んだ答案が多かった。これは一般的な考え方から選んだのかもしれないが、本文の記述にはなく、ロールズの主張とも異なる。

(5) 誤答では b が目立つが、「必ず」などの断定的な内容を含む選択肢は、本当にそう言えるのか注意深く本文を確認するようにしよう。

(6) d を挙げられた受験生は少なかった。誤答では c と f が目立つ。もっとも面白い内容でも、本文の論理展開との整合性を確かめることが大切。

5 長文読解

ペットとしての猫の魅力・特徴について述べた文章。全訳も参照しながら全体の内容を再確認しておくとうい。

(1) 空所①について、yet は現在完了の否定文などで副詞として使われるのを目にするのが多いので、接続詞としての意味を推測しにくかったようだ。

(2) as if …を「たとえ…としても」と訳したものなど、この表現が仮定法だとつかめていなかった解答が散見された。続くSVが省略されている点にも注意したい。

(3) while を「…する間は」と訳した解答が多く、it cannot possibly be sufficient 以下は it を to 以下を受ける仮主語と捉えたものや、sufficient の訳出が不十分な解答が見られた。

(4) この段落の第1文をまとめて含めてもかまわないが、その部分のみに終始したものは不可とした。

第3回 高2英語

総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(3) 誤答としては **a** が多かったが、‘~ is one thing; ... is another’ (～と…は別ものである) という表現を知っていたかが問われた。

問題B

Part 1 (1) ~ (2) は比較的よくできている。

(4) は **foods** と書いている受験生もいたが、**food** は不可算名詞で、複数の種類を念頭において言う場合以外は **s** をつけない。

Part 2 今回はスペルミスや、単語の抜けや単語の誤りなどは一律、配点分の減点とした。

(ア) では **there are** はできているものの、**kind** を複数形にできていなかったり、**communication** を複数形で書いてしまったりしたものなどが見られた。

(イ) でも **a number of** の **a** が抜けたもの、あるいは **a number of** ができているのに、**technology** を複数形にできていないものなどのミスが多かった。ディクテーションでは一般的に **a**, **of**, **the** のように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、自分の解答が文法や語彙の知識に照らして誤りがないか確認することに注意したい。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) **ウ**から始められなかった解答が目立つ。また、**ウ**のあとに**オ** (**specialized**) の方を選んでしまったものも多かった。どの過去分詞を **kept** の補語にするかは文脈の理解が不可欠。

(2) は比較的よくできているが、**only** を入れる位置を誤ると文脈がつながらなくなってしまった。

(3) (4) もよくできていた。

(5) の誤答では **had been known about Leonard's work** (**ウ** → **イ** → **エ** → **ア** → **オ** → **カ**) というものが大変多い。**if** の省略で疑問文の語順になるということまでは理解できていたが、疑問文の形について「助動詞を含む文は助動詞を文頭に出して疑問文を作る」という点について理解がややふやだったということになる。

問題B 和文英訳

タイムカプセルを掘り出すにあたっての語り手の心情をテーマにした出題。日本語の字面にとらわれず、訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

㉑「思い出す」: **remind** は「人に～を思い出させる」なので、ここで **I** を主語にしては使えない。

「胸をおどらせていた」: **be interested in** や **be happy about** ではこの意味合いには少し弱い。「わくわくしていた」ということなので **be excited about** [**by**; **at**; **over**] に思い至りたかった。**look forward to** (= **to be excited and pleased about something that is going to happen** (LDCE)) を用いたものは許容とした。

㉒「…だろうと思いました」: **I thought there were few people** は、時制について注意深くなりたいたい。「悪天候」: ここでは特定の日の天候を言うので **the** をつけて使うことに注意しよう。「歓声」: **cheer** は思いつかなかったと思うが「喜びの声」と考えて **cries** [**shouts**] **of joy** と工夫して訳せれば合格。「裏切られた」では **betray** を使った直訳では通じないが、そのような訳は少なかった。「予想」: **prediction** :

supposition ; anticipation など許容。

◎「虫捕り」の動詞には capture ; collect も使える。hunt はもっと大きな動物を「狩る」という意味なので不適當。「虫」には insect のほか、bug も使える。worm は「毛虫 ; 芋虫」を指し、意味がせまくなるのでここでは使えない。「歯が立たない」(= 打ちまかせられない) では beat のほか、defeat も使える。「～となると」には最適の定形表現 when it comes to ～があることをここで確認しておきたい。このイディオムを使わない場合は Ryota was much better at catching insects than me などとも表現できる。

3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(33語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点から0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答案は内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

解答・別解では「60歳になったら～返納する」ことも記述内容に含めて全体としてひとつの主張になるようにまとめる形にしているが、今回の試験の答案としては「その意見に賛成 [反対]」という書き方のものも許容した。また、文字通り「賛成 [反対] だ」と述べていなくても「返納する必要はないと思う」だけでも反対の意志が読み取れるので許容とし、また「60歳」という年齢に注目し「60歳での返納は早すぎるので反対だ。70歳であれば妥当だと思う」など、条件付きで反対しているものも許容。賛成意見としては「事故を起こす危険性が高い」、反対意見としては「買い物など、生活に必要」などの理由を挙げた答案が多かった。同じ内容を繰り返すだけのものや、理由をいくつか挙げただけで箇条書きに近いものは主張の説得力に欠けてしまうので気をつけよう。

4 長文読解

「選択」をテーマにしたエッセイ。やや抽象的な箇所もあり読みづらさを感じたかもしれないが、著者の体験を述べている箇所を手がかりにすれば趣旨を読み取れたのではないかな。

(3) while を「…であるのに [である一方]」という‘対照’を表す接続詞で訳すべきところ、「…の間」と訳しているものが多かった。we may not always have … と後ろの we always have … が手がかかりとなった。have control over ～ の control を「操作する」と訳したものが多かった。また among はここでは「(選択肢の) 中から [中で]」と訳すほうがより自然だろう。may を訳出していない答案も多く見られたが、ここでの may は‘推量’を表し文意からも訳出は必要だろう。

(4) 空所 B について、文脈の読み解きと熟語の知識を問う問題であった。正解の b を挙げられた受験生は少なかった。選択肢 a を選んだ解答も多くあったが、come by (手に入れる) は正反対の意味なので注意しよう。

(5) 第1段落で述べられた内容と第2段落以降の内容のつながりに戸惑いを感じたかもしれない。エッセイでは論説文より段落の展開がわかりづらいかもかもしれないが、先へ読み進めていくことも大切。

5 長文読解

極地よりも低緯度のほうが生物の多様性が高くなるという、生物の多様性をめぐる諸説が述べられた文章。

(1) 解答箇所を見つけられているものの、単語の訳し方などの誤りが見られる答案も少なくなった。life は多義語だが、ここでは「生命」ではなく「生物」が適切。文末は「～こと」や「～というパターン」など体言止めでまとめていないものは減点とした。

(2) 下線部に含まれる単語自体には難しいものはなかったが、自然な日本語で訳す工夫が求められる問題であった。the case を「場合」や「例」と訳していた解答があったが、「実情、そう (いうこと)」という意味。advance はここでは「唱えられた」や「提言された」と訳した方がよい。

第4回 高2英語

総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(3) 誤答としては **d** が多かった。音声に出てきた **bonus** につられないこと。

問題B

Part 1 (4) 2つともできて与点した。(ア) は割合よくできている。**kemical** や **cemicle** などのスペリングミスに気をつけたい。(イ) **point** とした誤答が散見されるが、直後に名詞 **pleasure** があるので、形容詞が入ることに注意しよう。

Part 2 それぞれ、完全に書けて与点した。

(ア) **whether it is resulted on** や **whether it is a result** など、弱く発音されて聞き取りにくい単語がやはり書けていない。(イ) でも **to** を聞きもらした **I can learn** (ハ) **avoid** や **I can learn to avoid to** などの文法ミスが見られた。ディクテーションでは一般的に **a, of, the** のように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、自分の解答が文法や語彙の知識に照らして誤りがないか確認することに注意したい。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) 誤りの多い解答では、最後の3つの並べ替えで苦戦している解答が目立つ。**best** を入れる位置が難しかったのかもしれない。ここの **best** は副詞である。また **each** の位置を **the one** の前後に置いた誤りも多かった。**one** が何を受けるかも確認が必要で文脈の理解が不可欠だった。

(2) 誤りの多くは **those** が人々を指すと気づいていなかったと推測される。例えば、**those (who are) rich** で「裕福な人々」の意味を表す。**not inaccessible** と続けた解答もあったが、文脈と合わない。

(3) は倒置が起こる場合を見抜けるか試す出題。**Not until** ～を文頭に出すことに気づいていた受験生もいたが、**ア (appeared did) → エ (the phonograph)** と倒置の箇所を誤った答案が多かった。

(4) (5) は比較的よくできていた。決まったイディオムをおさえておこう。

問題B 和文英訳

企業の学生採用をテーマにした和文からの出題。訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

④基本事項を確認する目的でこの小問を作った。「どこの大学を出たか」「大学で何を学んだか」では間接疑問文を使って表す場合、**what university did students graduated from / what did students study** など間接疑問文の形が徹底できていない解答がまだまだ目立った。

⑤まず「のどから手が出るほど」という表現をどう英語で表せるかを見た。訳出されていないものは減点としている。直訳している解答も一部見られたが、概ねここは意味を汲み取れていた。受験生の中では **really** が多かったが、副詞を使わない **be keen to … ; be anxious to …** なども広く許容した。「対応する」は解答・別解以外では **cope with** ～ ; **address** なども有効である。「日々」は **every day** と2語で表すべきところを **everyday** と1語で書いているものなど細かいミスも避けたいところであ

る。

©「～だからだ」という日本語を見て、単独の Because 節を使った答案が散見された。Because S + V ~という形で単独で使えるのは、Why …?で問われた時の返答で用いる場合である。誤答の中には This is why S + V ~ (そういうわけで～) も多かった。「生き残り」を survive (動詞形) と書いている答案が目立った。「かかっている」を depend on を進行形で表しているものがあつたが、通例進行形は使えない。

3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(30語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点から0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答案は内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

今年のテーマは、受験生にとってなじみのある話題であったせいか、内容は考えやすかったのではないだろうか。今回は DVD にすることに賛成か反対かを問うもので、DVD と紙〔冊子〕の卒業アルバムのどちらも欲しいなどの解答は基本的に許容しなかった。解答例・別解の他に、賛成・反対例として「DVD は紙〔冊子〕に比べてデータが多く入れられる」「DVD は壊れると見られない」「DVD は小さくて失くしてしまうかもしれない」などが書かれていた。だが「DVD は紙〔冊子〕に比べてたくさんのことを思い出す」でとどまっているなどその理由、主張のサポートがないものも多い。1つのことを掘り下げて書ける力も養う必要がある。今後のために、形式面で指摘をしておきたい。第1文(I agree with the idea.)と最終文(So, I agree with the idea.)ではほぼ同じ文が重複する解答例が見受けられた。学校等でも指摘されているとは思いますが、本問のように語数の少ない場合は同じ文の重複は避けたほうがよい。

4 長文読解

「思考は思考にすぎず、現実ではない」「思考が感情を作っている」さらに「想像したことが現実のものではないことに気づけば人生の悩みを減らせるだろう」と説く自己啓発本からの出題。深く思考することを否定しているわけではないだろうが、思考により生まれた否定的な感情に心を乱されることなく人生を送ってほしいという内容である。

(1) 下線部直後の文を2つに分け、それぞれのポイントを正しくまとめられているものに点を与えた。各ポイント中での誤訳はポイント分の減点で、原則として部分点はナシとしたので、点差が開いたと思われる。設問は「友人の離婚」について聞いた時の具体的な「思考」について述べることを求めている。具体的でなく下線部の和訳に終始したものや、仮定法の2つの節をふまえた説明になっていないものが目立ったが、細かい点はどうあれ、「同じ出来事でも違った視点から考えると違う感じ方になる」という著者の主張自体は理解できている答案も見られた。

(5) 文章全体の主旨を問う問題だが、比較的よくできていた。

5 長文読解

人間の声を電子的に合成する技術の進歩と現状について述べた文章。カーナビなどの案内音声の思い浮かべながら読むとわかりやすいだろう。

(1) pronounced quite differently の修飾位置がわかっていないものが見られた。解説にもあるように、文法的には a noun for a heavy metal を修飾するので「発音のまったく異なる～名詞」のように訳すとよい。「コンピューターはどのように区別して発音すべきか」のように a computer を主語、pronounced quite differently を述語として続けて訳してしまったものが目立つ。heavy metal は専門用語に近いので「ヘビーメタル;ヘビメタ」などの誤訳はいたしかたない。

(3) 空欄ではなく解答してある答案は概ね理解できているものが多かった。

(4) pass over ~や build の不適切な訳が多い。

(5) f はよくできているが、c の代わりに d を選んだものが多い。

第5回 高2英語

総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

問題A

(5) いずれのイラストも紛らわしいので説明をよく聞く必要があったが、よくできていた。誤答としてはcが多かった。単純だが方角の聞き取りを間違えるだけでこのようなミスにつながる。

問題B

Part 1 (4) 2つともできて与点した。(ア)は medical としたものが散見された。直前の be used to ~を「～に慣れる」という意味に解釈し、to 以下を名詞句にしようとしたものと思われるが、それではこの文全体の意味が放送内容に合わなくなってしまふ。(イ)は放送内容には含まれない語のため難しかったであろう。different では、放送文内の remote が持つ「距離の遠さ」の意味合いが出ない。

Part 2 それぞれ、完全に書けて与点とした。

(ア) wearables 1語で wearable devices を指すことに気づかないと難しいだろう。このように、一般的に形容詞として使われる語が名詞的に扱われる場合もあることを覚えておくとよい。また、冒頭の to を聴き逃した答えも多かった。(イ) よくできていたが、make efforts の efforts を複数形にしてい

ない誤答が目立った。続く toward の t の音とつながって聴き取りにくいのが、make an effort という基本形を知っていれば気づけただろう。

2 語句整序・和文英訳

問題A 語句整序

英文中の整序問題で、日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) green と ice の対比については理解できている答案も多かったが、as opposed to ~ (～と対立するものとしての) の語順で誤りが目立った。

(2) the size の位置の誤りが目立った。… times the size of ~ = … times as large as ~ (～の…倍の大きさの) は難易度の高い表現で差がついた。

(3) were to melt から始めた誤答が目立ったが、下線部の後の entirely とのつながりも考えておきたかった。また、倒置に気づけなかった答案も多かったため、解説で考え方を確認しておこう。

(4) この段落の内容をまとめた箇所。氷の厚さと年代、氷の層の並ぶ順番を理解して読めていたかがポイントだった。

(5) provide A with B (AにBを提供する) を使った誤答が目立った。知っている表現に飛びつかず、前後をきちんと読んで判断することが重要。

問題B 和文英訳

ビジネスのための英語学習をテーマにした和文からの出題。訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

①「英語に堪能になる」は比較的よくできていた。苦勞が見えたのは「活躍の場を広げる」で、expand the place where I can work などと直訳した答案が多かった。ここでの「場」とは、つまり「活動の範囲」や「担当する業務の種類」のことだと読み換えられると、真意が伝わりやすい訳になる。

②「英語が通じる」は make oneself understood in English がよく使われる表現なので、覚えておくとよい。「会話ははずんだ」は the conversation was successful など、意味をきちんと理解した解答も多く見られた。

③「Aが…すればするほど、Bは～する」、「…するのにな～すぎることはない」はともに和文英訳で問

われやすい表現だが、どちらもよく書けていた。

3 自由英作文

文法・語彙と内容・構成の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(30語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点から0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答えは内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

今回のテーマは、レストラン入店における年齢制限に対する賛否を問うものだった。よく見かけるテーマではなかったかもしれないが、レストランで子供連れの家族と居合わせた経験を踏まえれば、書きやすいテーマだったのではないだろうか。解答例・別解の他に、賛成例として「子供向けのメニューや椅子などを準備するのに手間やお金がかかる」、反対例として「子供連れで行くことができるレストランが少なくなると、子供連れでの外出が難しくなり、少子化につながる恐れがある」なども挙げられていた。一方で、「小さい子供はうるさいから」など、主観のみの主張でとどまっているものもあった。意見を述べる英作文では、自分とは異なる意見の人に対して説得するという視点を持って取り組みたい。理由を述べる際には、具体例やエピソードを挙げるなどして、読み手が納得できるような根拠を示すように心がけよう。

4 長文読解

物理学者である筆者が、男女同権主義団体から抗議を受けた際の出来事を描いたエッセイからの出題。筆者の妹と筆者の友人とのやりとりや、筆者の著書で扱われたエピソードなど、注意して読まない状況を読み間違いやすい箇所もあったと思われるが、筆者の最後の発言のオチを楽しんで読んでほしい内容である。

(4) 皮肉も含めて本文の流れが理解できているかどうかを試す問題。男女の対比はこのエッセイの核

となるころなので、わからなかった人は解説を読んで確認しておこう。

(5) 文頭の For を「～のために」「～にとって」と訳した答案が多かった。For 以下に women (do indeed) suffer from ~ という SV の形があることから、この For の役割を考えて解答したい問題だった。前後の流れや英文中の単語から何となく解釈するのではなく、文構造をきちんと解析して読む癖をつけよう。単語や表現については、まず presence (同席；出席) の誤訳が目立った。形容詞 present (出席している) と合わせて覚えよう。また、serve to … の訳脱も多かった。「(あなた方が出席したことが) …するのに役立つ」、「(あなた方が出席したおかげで) …することができる」などと訳すと自然な訳となる。

5 長文読解

古代からの人間と犬の関係について述べた文章。人間と犬との関係がどれほど古くから続いているか、他の動物との関係とどう異なるかという点を念頭に置いて読んでほしい。

(1) 挿入的に使われている分詞構文 buried ~ の構造を取り違えた誤訳が多く見られた。また、There lay ~ は There are ~ 構文とほぼ同じ捉え方ができるが、ここを誤訳したことによる主語の取り違えが非常に目立った。なお、puppy はそのまま「パピー」とはせずに「子犬」と日本語にすること。和訳問題や説明問題では、日本語として広く定着しているものを除いて、カタカナは用いないようにしましょう。

(2) 誤答が多かったのは b。ここは 1977 [S] is [V] ancient history [C] という構造であることを見抜くことがポイント。下線部以降の内容から、ancient history という比喩表現が意味する内容を的確に捉えよう。

(4) 「…変化した。」「～の進化を引き起こした。」のように、主語と動詞から成る‘文’として書いてしまった答案が目立った。直前の coevolution と同格関係にあることを確認しておこう。

(5) かなりの難問と言えよう。ここは“domesticating”(=引用符が付いている) が比喩であることも読み解く鍵となる。